

## 2年目の釜石

派遣先 釜石市建設部都市計画課復興住宅整備室  
所属 危機管理室 危機管理課  
氏名 荒川 恵子  
活動期間 平成29年4月25日～（継続中）

### 1 現在の業務

釜石市に派遣されて2年目となる今年度は、昨年度から引き続き復興公営住宅整備に関する事務に加えて、市が発注する工事（主に建築及び設備工事）に関する事務を担当しています。

### 2 業務内容について

「復興公営住宅」（以下「復興住宅」とは、災害で住まいを失った方に比較的廉価な家賃で入居していただくための公営住宅のことです。

平成30年12月、市街地のかさ上げ地に浜町復興住宅が完成し、釜石市内で整備を計画していた復興住宅47団地、1,316戸がすべて完成しました。震災から8年経ってついに、ついに、です。

ここまで来るのに多くの方の強い思いと苦労がありました。特に計画当初から携わってきた釜石市復興住宅整備室のみなさんにはこみ上げる思いがあったのではないかと思います。また、この事業に携わった本市から歴代の派遣職員（建築職）の皆さんも遠く離れた北九州市で喜んでくださっていることと思います。

わたし自身は事務職として、復興交付金の事務や予算管理、契約、財産管理など裏方的業務（デスクワーク）担当だったため、「苦労したけどついに工事が終わったぞー！」とか「入居者の笑顔が見られてうれしい」といった場面に遭遇することがほとんどなかったことはちょっぴり残念ではありますが、北九州



市での財務や庶務などの“地味な事務仕事”の経験を活かし、“縁の下のちよこつとの力”くらいにはなれたのではないかな、と思っているところです。

また、都市計画課では釜石市で行う建築及び設備工事のほぼすべてを実施しています。被災エリアの造成工事が進んだことで、ここ2年間は地域の集会所や消防団施設の再建工事がぐんと増えています。地域社会の拠点整備が進みつつあるのかな、という印象です。さらに観光施設やラグビーワールドカップ関連施設の工事も加わって、発注件数が平成28年度以前の数倍に膨れ上がっています。

### 3 釜石トピックス

#### (1) 道路がつながった！

平成31年3月9日、釜石から東北自動車道の花巻JCTまでの約80kmを結ぶ高規格道路、釜石自動車道がついに開通し、岩手県で初めて沿岸部と内陸部が高速交通体系で結ばれました。また同時に、三陸沿岸道路の釜石市内を通る区間が開通し釜石自動車道と結節したことで、釜石市中心部から三陸沿岸部を南へ向かい宮城県気仙沼市までの約60kmが高規格道路でつながりました。

前方をリアス式海岸、背後を1,000m級の山々に囲まれた釜石は、かつて「陸の孤島」と呼ばれるほど他の地域とのアクセスがよくありませんでした。また、震災時は国道45号等の三陸沿岸の幹線道路が壊滅的な被害を受け、それが救援・救助活動を困難なものにしたことから、この度の道路の開通は釜石市民にとって悲願であり、歴史的な出来事といえます。



開通当日、わたしは高規格幹線道路対策室を擁する建設部の職員として開通式のお手伝いさせていただきました。

開通前の高速道路に上がり、しかも開通式に立ち会うなんては一生に一度あるかないかのことで、貴重な体験になりました。

開通式後、自分でこの道路を走ってみたところこれまで1時間かかっていた場所に40分で着いてしまい、

本当に速く便利になったなあと感慨深かったです。

#### (2) 鉄道がつながった！

3月23日、震災で不通となっていたJR山田線（釜石～宮古間）が第三セクターの三陸鉄道(株)に移管され、南北で接続する路線と合わせた「リアス線」として開通しました。開通当日は沿線のあちこちで記念イベントが行われ、開通を待ちわびた多くの方々の喜びで溢れました。このニュースは全国的に報道されたそうで、わたしの友人からも「ニュース見たよ」「よかったね」のメッセージをいくつもいただきました。こうやって全国の人たちが震災の被災地を思い出してくれるのはとてもありがたいことです。

さて、せっかくなので、開通区間（釜石～宮古）の列車に乗ってみました。開通で盛り上がっているとはいえ三陸沿岸はもともと車社会ですので「そんなにお客さんはいないだろう」と高を括り、発車時間ぎりぎりに列車に乗り込むと…なんとほぼ満席！なんとか空席を見つけて一息ついたところで車内を見回すと、お客さんはほぼ全員が開通した路線を乗ってやろう！という意気込みの観光客風で、これはみなさん終点まで乗っているな…と思ったら予感通り、釜石から宮古まで約55km・1時間半の間、途中下車する人はほとんどいませんでした。

お客さんの中には、釜石駅を出てしばらく森の中を走る区間では「シカがいるよ

一」などとはしゃいでいたものの、やがて海が見えて、巨大な防潮堤や広大な空き地（津波でまちが流された後に造成された土地）が現れると、それらを見つめながら言葉少なになった方もいらっしゃいました。また、2019年秋にラグビーワールドカップが開かれる「釜石鶴住居復興スタジアム」が車窓から見えると、被災地の風景とあわせて写真を撮っている方が多かったです。ちなみに宮古から釜石への帰りの便は観光客と地元の高校生で満員電車並みの混雑でした…。

### （3）観光客が増えたような…

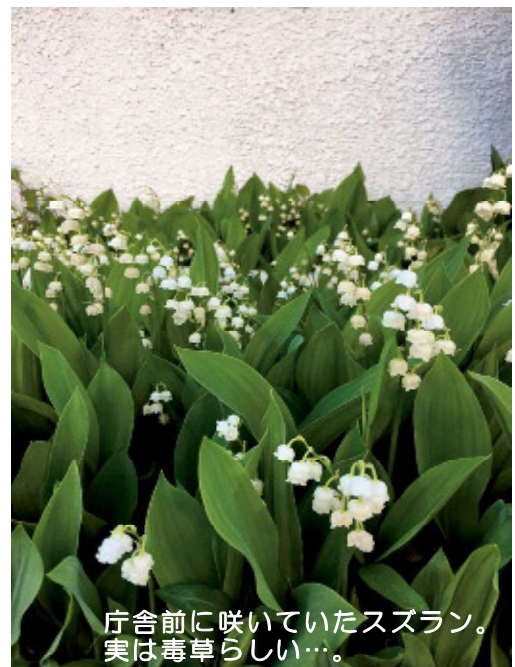
最近、釜石のまちを歩いていると、地図を片手にきょろきょろしながら歩いたり、まちの写真を撮ったりしている明らかに観光客風の方を毎日のように見かけます。わたしが着任してこの2年間、あまり見かけなかったタイプの人々なのでとても新鮮な感じがします。ほかにも、JR釜石駅で改札待ちの行列ができたり、釜石ラーメンの有名店に行列ができていたりなど、観光客が増えたのかなあと感じています（あくまで個人的な感覚ですが…）。リアス線の開通やラグビーワールドカップなどで釜石がメディア取り上げられているからではないかと思いますが、釜石の今の姿を多くの方に見ていただけるのはありがたいことです。

### （4）釜石の日常

釜石に赴任したての北九州市の派遣職員はもれなく「まちなかでシカが歩いている！」とビックリするのですが、半年も経たないうちにそれは日常になり、カラスがクルミを道路に置くのも（車が踏んで殻を割ってもらいたいようです）、ジョギング中にサルの群れと出会うのも、運転中にキツネやリスを見かけるのも、クマ出没の防災無線放送もすべて日常になりました。

また、岩手では当たり前すぎて気にもかけないことが、よく考えると九州人にとっては珍しい、という事柄もあります。

例えばスズラン。スズランという花は多くの方がご存知だと思いますが、本物を見たことがあるかと言われると「はて？」となるのではないのでしょうか。スズランは主に北海道や東北で生えている植物だそうで、そう言われると九州で見かけたことはないような気がします。釜石では初夏になるとあちこちで見ることができます。こちらではありふれた光景なので咲いていてもあまり気にしていませんでしたが、よく考えると珍しいなあと面白い写真を撮ってしまいました。



庁舎前に咲いていたスズラン。  
実は毒草らしい…。



さて、釜石ではシカと頻繁に会いますが、たまにカモシカ（ニホンカモシカ）に出会うことがあります。カモシカは特別天然記念物なので滅多に見られないはずなのですが、なぜか私の通勤路によく出没します。いつもは道路わきの空き地に寝そべって（？）いますが、先日は歩道でたたずんでいました。

#### 4 2年目の釜石

1年目は被災地の風景に度々ショックを受けていましたが、2年目は巨大な防潮堤も建物が建たないままの造成地も日常になってしまい、被災地に住んでいることを意識しない日が多くなりました。

そのような中、先日地元の方と会話の中で「全部流されちゃったから子どもの頃の写真がないんだよー」と何気なく言われたときに、やはりここは被災地であること、そして、震災の体験は普段とりたてて話すことはないけれども、心の中にはそれぞれいろいろな思いを抱えているということを再認識させられました。そして、全国で災害が相次いでいる昨今、どこの被災地の方も同じ思いなのだろうと思います。

わたしに何ができるのか、いまだに自問自答する日々です。